TOHOKU UNIVERSITY IRIDeS
東北大学災害科学国際研究所

International Conference on National Medical Resilience Global Experience, Taiwan Action で災害時の病院機能継続について講演しました(2026/10/17-18)

テーマ： Maintaining Hospital Functions During Disasters – BCP: The Starting Point for BCM –
場所：台北市立萬芳病院国際会議場（台北市、台湾）

2026 年 10 月 17 日(土)、台北市（台湾）の台北市立萬芳病院国際会議場で International Conference on National Medical Resilience Global Experience, Taiwan Action が開催され、佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が「Maintaining Hospital Functions During Disasters – BCP: The Startin」のタイトルで災害時の病院機能維持について講演しました。

この国際会議は台湾衛生福利部と台北医学大学の共催によるもので、米国・日本・イスラエルからの災害医療専門家に加え、台湾の医療界及び政府機関の代表者が一堂に会し、医療レジリエンス政策、医療サービスの継続性、大規模災害時の医療指揮・調整、医療物流と資源配分、ならびに医療従事者の心理的レジリエンスに関する知見を共有する会議です。17 日は主に専門家講演、そして 18 日にはレジリエンスに焦点を当てた実地演習が実施され、第２種救急救命所および病院の緊急対応シナリオ訓練が行われました。佐々木准教授は１日目に日本の災害保健医療福祉発展の歴史、医療機関 BCP の広がり、東北大学病院の BCP/BCM、将来展望について講演を行い、２日目に訓練巡察・講評に参加しました。

当日は台湾全土から約 400 名が会場参加、また web 公開も行われました。台湾は自然災害に加え地政学的リスクも緊急の課題として捉えており、全土において緊急時の医療機能継続が大きな課題となっています。福利衛生部から Healthcare Institution Continuity Plan (HCP) 事業について業務委託を受ける台北医学大学では、全土に向けた HCP ガイドライン策定を行っており、国際会議に先立って 10 月 16 日(金)に福利衛生部双和病院（※台北医学大学が運営）で開催された「Tohoku University Hospital BCP Experience Sharing Session」では、佐々木准教授は東北大学病院 BCP/BCM に関するより詳細な知見を福利衛生部関係者、台北医学大学関連 3 病院責任者らに講演し、HCP ガイドライン策定に資する知見を共有しました。

原因が何であれ、医療従事者が医療機能を維持し、住民の生命・健康を守る業務に就くことには変わりはありません。18 日の実地演習では大規模紛争に備え地上階にある ICU 患者を地下２階駐車場の臨時病棟に移し、治療継続に懸命に取り組む病院スタッフの訓練の様子が印象的でした。佐々木准教授は東日本大震災の経験も踏まえ機能維持の観点から、人的・物的資源の持続的調達、病院避難の必要性などについて事後検証でコメントしました。



国際会議ポスター



災害時の医療機能維持について
講演する佐々木准教授

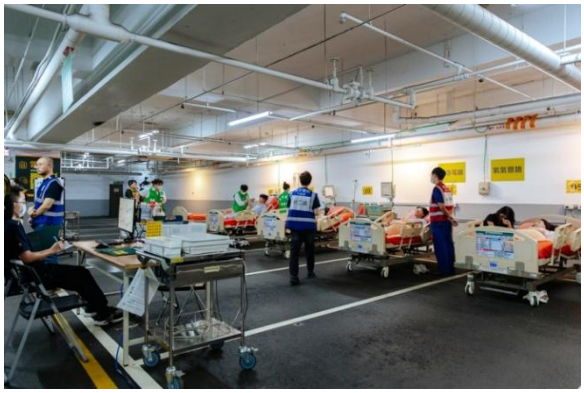
（次頁へつづく）



会場の様子



衛生福利部・台北医学大学関係者、
講演者等で記念撮影



地下２階駐車場に設置された
臨時病棟



Tohoku University Hospital BCP
Experience Sharing Session で
講演する佐々木准教授

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）